三重病院ニュースレター

1 2010

N E W S L E T T E R vol.125

平成22年　今年の目標　1ページ

撃退!メタボ!!～やせ隊・へらし隊・すっきりし隊／今月のイチオシ図書　2ページ

糖尿病教室でホットプレートを使った簡単・温か・ヘルシーメニューのご紹介／「糖尿病教室1月」のお知らせ　3ページ

クリスマス☆コンサート／外来からのお知らせ／アレルギー教室のクッキング／外来診察のご案内　4ページ

新年の三重病院の目標を皆様にもそっとお知らせします。今年も三重病院をよろしくお願いします！

平成22年 今年の目標

国立病院機構三重病院　院長　庵原 俊昭

「皆さん、明けましておめでとうございます。」

新年を迎え、皆さんは新しい目標を立てられたことと思います。昨年に引き続き、三重病院長の今年の目標を、①診療機能、②臨床研究、③教育研修、④情報発信の4つの面からお伝えします。

診療機能の面では、地域との連携により強く取り組んで行きます。当院は、小児を中心として津地区医師会とオープンシステム医療を行っており、一次医療機関で困った患者様を受け入れる医療機関（二次医療機関）として活動しています。三重県からは「難病医療拠点病院（神経内科）」、「小児救急医療拠点病院（小児科、小児外科）」、「聴覚障害児助成事業医療機関（耳鼻科）」の認定を受け、三重県になくてはならない病院として活動しています。また、福祉面でも三重県との太いパイプがあります。通園事業、ショートステイなど、在宅の障害者を支える医療も充実させたいと思っています。

診療面のトピックスは、昨年から始めた食物アレルギー減感作療法です。タマゴや乳製品が食べられなかった人たちが食べられるようになりました。また、リハビリテーション部門では、平成21年度から人員が増加し、機能療法、作業療法の充実に加え、呼吸器リハ、摂食嚥下訓練、言語訓練へと訓練の領域を広げました。平成22年度には更なる充実を目指しています。

当院の建物は、古い部分と新しい部分が混在しています。この数年間、スタッフは充実し、経営も安定してきました。いよいよ病棟の更新を図る時期です。入院の受け入れ患者様を増やし、平成22年度には新しい病棟の建設が始まるよう皆でがんばりましょう。

臨床研究の面では、新型インフルエンザウイルスのパンデミック出現後、当院のスタッフが新聞やテレビで取り上げられる回数が増加しました。**三重県だけではなく日本の新型インフルエンザウイルス対策のブレーンとして活動しています。**「成人の新型インフルエンザワクチンは1回で十分な免疫反応が得られる」という研究結果は、当院を含めた国立病院機構からの発信です。

アレルギー疾患の研究も進んでいます。食物アレルギー減感作療法に加え、スギ花粉急速減感作療法も行っています。インフルエンザとアレルギーとの関係にも取り組み始めました。当院の臨床研究の特徴は、地域の先生方と共同で取り組んでいるところです。臨床の疑問を解決する方法が臨床研究であり看護研究です。今年も若手スタッフを巻き込んで発展させていきたいと思っています。

教育研修は、スタッフの育成には必須です。**昨年度は、医療安全チーム、感染対策チーム、栄養対策チームなどが研修会を開催しました。**多くのスタッフが出席くださりありがとうございます。月2回行う感染症勉強会、脳波誘発電位勉強会も人気があります。糖尿病勉強会も定期的に開かれています。今年も充実した活動を期待しています。

現在当院には、三重大学医学部医学科学生、看護学科学生、三重県立看護大学学生、三重中央医療センター附属三重中央看護学校学生、津看護学校学生、三重看護学校学生、高田短期大学学生など、多くの学生が実習しています。一昨年度から看護学生を指導する実習指導者の充実を図っています。各病棟は暖かく学生を迎えてください。そして楽しく働く姿を見せてください。実習指導に選ばれる病院、学生に選ばれる病院に一歩ずつ発展していきましょう。

今年は皆さんの日頃の研究活動をQC（Quality Control）活動につなげられるよう計画しています。臨床の現場で感じた疑問を整理することからQC活動は始まります。仕事がしやすい職場に変えることがQC活動です。

次のページにつづきます